

## 経鼻下垂体手術治療指針と実績

### 下垂体腫瘍

下垂体腫瘍は、鼻の奥で頭の底にある下垂体（ホルモン分泌中枢）から発生する腫瘍です。視力視野障害、頭痛、ホルモン症状（無月経、末端肥大症、ホルモン低下症状、他）などの症状でみつかります。最近、MRI で偶然みつかることも増えています。症状がなく増大もせず治療を要さないことも多いです。薬でなおる場合もありますが（プロラクチン産生下垂体線腫など）、症状が出てきた場合や腫瘍が増大してきた場合、手術治療が必要になります。

### 治療指針

- 1) 下垂体手術には開頭術と経鼻手術があります。よほど頭の中に進展しないかぎり、経鼻手術となります。当院では、鼻から下垂体手前までは、鼻内内視鏡手術専門の耳鼻科医が担当しています(術前後の鼻内ケアも含む)。
- 2) 以前は上口唇下からの顕微鏡手術が大半でした。最近の内視鏡の導入により、鼻腔内からの内視鏡（単独または顕微鏡併用）手術が大半です。より侵襲の少ない手術が可能です。
- 3) 良性腫瘍がほとんどですので、合併症をおこさないことを優先しています。合併症として、術後出血、髄液漏、髄膜炎、尿崩症を含む下垂体機能低下などがあります。重篤な合併症はまれです。術後、下垂体機能が一過性に低下することがあり、しばらくホルモン補充(内服・点鼻)を行います。視力視野障害や頭痛などの圧迫による症状は速やかに軽快します。術前 1 週間前に入院、術後 2 週間前後で退院していただいています。術前術後は内分泌ホルモンの検査や調整を行います。

### 治療実績（2006 年～2009 年）

最近 4 年間の経鼻手術件数は計 17 例でした。当院での合併症は、最近 4 年間 17 例のうち 1 例で髄液漏を合併し再手術を要しました。視力視野障害や頭痛などの症状が軽快したのは 17 例中 15 例でした。不変の 2 例は、無症状の腫瘍増大症例です。

### 経鼻手術件数（17 例）

年度	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年
年間手術件数	5	4	4	4

### 内訳

- 下垂体線腫 13 例（機能性 3 例、非機能性 10 例）
- ラトケ嚢胞 2 例
- 下垂体卒中 1 例
- 転移性腫瘍 1 例

### 転帰

- 軽快（15 例）
- 不変（2 例）
- 悪化（0 例）